令和６年度作成
（試験実施：令和５年度）

豚ぷんたい肥を利用した水稲栽培

農場の概要
・地域　熊谷市新堀新田　　・対象作物　水稲

導入した資材等
・豚ぷんたい肥

導入の目的・ねらい
JAくまがや管内の小麦生産者へ行ったアンケートで、「たい肥を利用したい」と回答した生産者は66%と多かったため（令和５年２月、回答人数153人）、豚ぷんたい肥を利用しコストを低減した水稲栽培を実証した。

試験概要
３月(小麦茎立ち期)に豚ぷんたい肥を施用し、基肥の化成肥料を減らし、豚ぷん堆肥の代替資材としての可能性について実証した。
・面積　７６ａ
・豚ぷんたい肥施用量　２t/10a
・品種　彩のきずな　キヌヒカリ
・主な管理作業は表１のとおり。

マニュアスプレッダによるたい肥散布

結果概要

栽培概要については表１のとおり。基肥の化成肥料は慣行対比１袋(20kg/10a)減らし施肥した。調査結果は表２のとおり。両品種共に県奨励品種特性表の平均収量を上回った。彩のきずなは、稈長が8cm長くなったが、収穫前に大雨や強風も無く、倒伏せずに収穫できた。食味は、食味計（静岡製機）で測定した結果、キヌヒカリはJAくまがや米食味コンテスト表彰基準の75点を超え、収量と食味を両立した。小麦の追肥は、慣行どおり化成肥料を施用したが、倒伏やうどんこ病の多発はなく、茎立ち期の豚ぷんたい肥施用は小麦に対して悪影響は無かった。肥料価格の高止まりが続く昨今、より安価で安定生産を可能とする資材として経営改善に向けた選択肢を示すことができた。

生産者コメント

令和５年産で豚ぷん堆肥を利用したほ場は化成肥料のみのほ場より収量が多かったため、令和６年産水稲作も豚ぷんたい肥を利用した。

表１　栽培概要

	ほ場①	ほ場②
地番	久保島武台	久保島築場
田植え日	6月19日	6月15日
品種	彩のきずな	キヌヒカリ
堆肥	2 t/10a	2 t/10a
農力アップ	60 kg/10a	60 kg/10a
基肥	2 袋/10a	1 袋/10a
穂肥	なし	なし
窒素合計	14.74kg/10a	11.94kg/10a
坪刈り	9月26日	9月19日

＊豚ぷんたい肥は窒素1.14%、肥料効率40%で計算。基肥は窒素14%。

表２　生育・収量調査結果

	稈長	穂長	穂数	千粒重	反収	食味値
	cm	cm	本/㎡	g	kg/10a	（参考）
彩のきずな（ほ場①）	79	23.4	491	22.3	594.0	65.5
彩のきずな（特性表）	71	22.3	413	22.7	460.0	－
キヌヒカリ（ほ場②）	81	18.9	300	20.7	502.6	75.5
キヌヒカリ（特性表）	81	18.5	323	21.5	456	－

＊主要農作物奨励品種特性表うち普通期栽培数値（R2～4年）を記載

問合せ先
大里農林振興センター
電話　048-526-2210